

The background of the entire page is a collection of overlapping, hand-painted watercolor circles in various colors including green, blue, pink, orange, and purple. Each circle has a soft, textured appearance with some darker centers, resembling ink blots or organic cells.

一滴で 世界が 広がる

一滴のアイデアと想いからすべてが始まる。
それが重なり、広がり、寄り合って世界を染めていく。

はじめに

持続可能な地域社会に向けて

長く住まう地を、生まれた故郷を、訪れて観た風景を、そしてその地域だからこそその可能性を、次の世代に繋ぐことができないかもしれません。

今、誰もが本気で考えなくてはいけない時がきています。

地域が社会としての機能を維持し、そこに住む人が、そこに関わる人が、自分らしく幸せ（ウェルビーイング）でいられるように。

そう、私たちが目指すのは、この地を持続可能な地域社会として、次の世代に引き継ぐことです。

そのために解決しなければならない問題は山積みです。

地域課題自体が複雑多様化する中、少子高齢化による限られたリソースがその解決のハードルをさらに高いものにしていきます。

このプロジェクトでは、産学官や業種などのセクターを超えた多種多様なプレイヤーが、データに基づく課題（アジェンダ）を共有し、同じ方向を向いて解決に取り組む「コレクティブ・インパクト」という手法を用いて解決に取り組めます。

そして、その手法をパッケージとして様々な地域に適用することで、自律的で持続可能な地域課題解決の仕組み＝誰もが活躍できるステージを創出していきます。

今なお地域に根付く「寄り合い」文化のように、様々な力が寄り合って、同じ方向に撚りあって、より愛する山形にするために。

持続可能な地域社会のため、誰もが活躍できる“ステージ”を創出する

本書の使い方

Yamagata yori-i プロジェクトは、「持続可能な地域社会を創出する」という想いから始まりました。地域課題は、山形県に限らず、全国各地で共通して発生しており、多くの自治体はその解決策を模索しています。

本書は、同じような課題を抱えながらも「何から手をつければよいかわからない」と感じている自治体のためのマニュアルです。これまで山形県で実践してきた「どのような体制で、どのようなアジェンダを設定し、どのようなフローで進めてきたのか」を具体的に記載しています。

このマニュアルを参考に、まずは山形県での取り組みをなぞることで、課題解決の第一歩を踏み出すことができます。しかし、本書は決して画一的な手法を押し付けるものではありません。それぞれの地域に合ったオリジナルのアプローチを生み出し、独自のやり方で実践することが重要です。

ぜひ本書を活用しながら、地域の特性に応じた持続可能な仕組みをつくり上げてください。

目次

01	yorii 概要	4	09	モデル地域でのアジェンダ例	15
02	実施フロー	6	10	アジェンダ分科会の開催	16
03	チームビルド	8	11	テーマの推進	18
04	プロジェクトパーパスの設定	9	12	具体例	20
05	マネジメント方法の明確化	10	13	横展開	22
06	ボードメンバーの募集	11	14	実績	24
07	地域ヒアリングとデータ	12	15	広報活動の実績	27
08	アジェンダの策定	14		最後に	28
				お問い合わせ	29

事業の趣旨

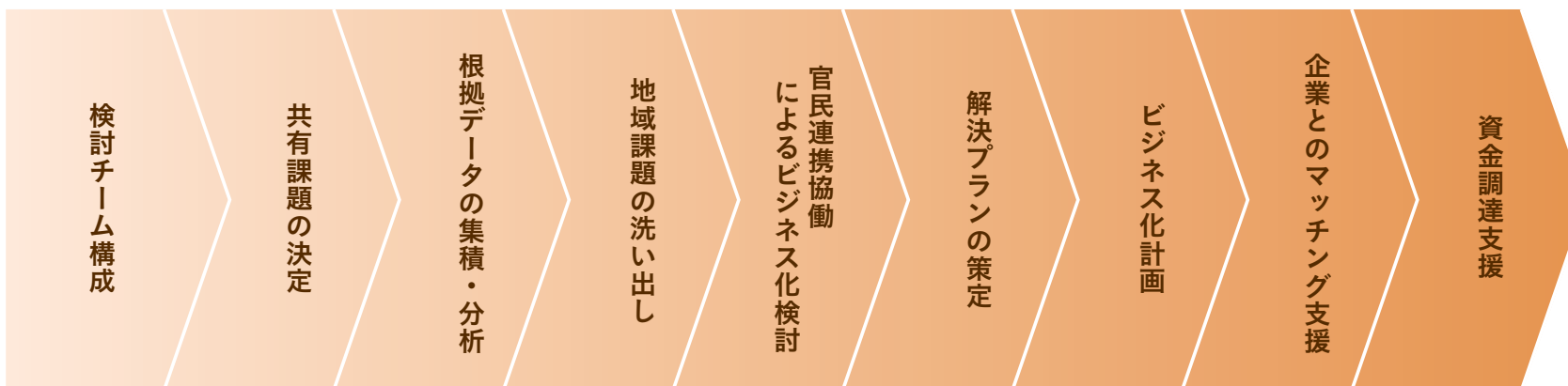
新たなビジネスの創出や新規創業は容易に生み出されるものではなく、それらを生み出す仕掛けが必要。

過疎化、少子化、人口減少等、地域が抱える諸問題から創業シーズを生み出す。

併せて、地域に役立ちたい若者の創業意欲を引き出す。

事業実施スキーム

実施主体：やまがた産業支援機構



- ① 最上エリアをモデル地域に選定。
- ② 金山町、真室川町、鮭川村の3町村において課題の根拠となるデータの集積やヒアリング等を実施。
- ③ 最上地域のフィールドを活用しながら地域課題・地域資源をテーマにビジネスアイデアを創出し、ビジネスモデルの社会実装・実証実験を展開。

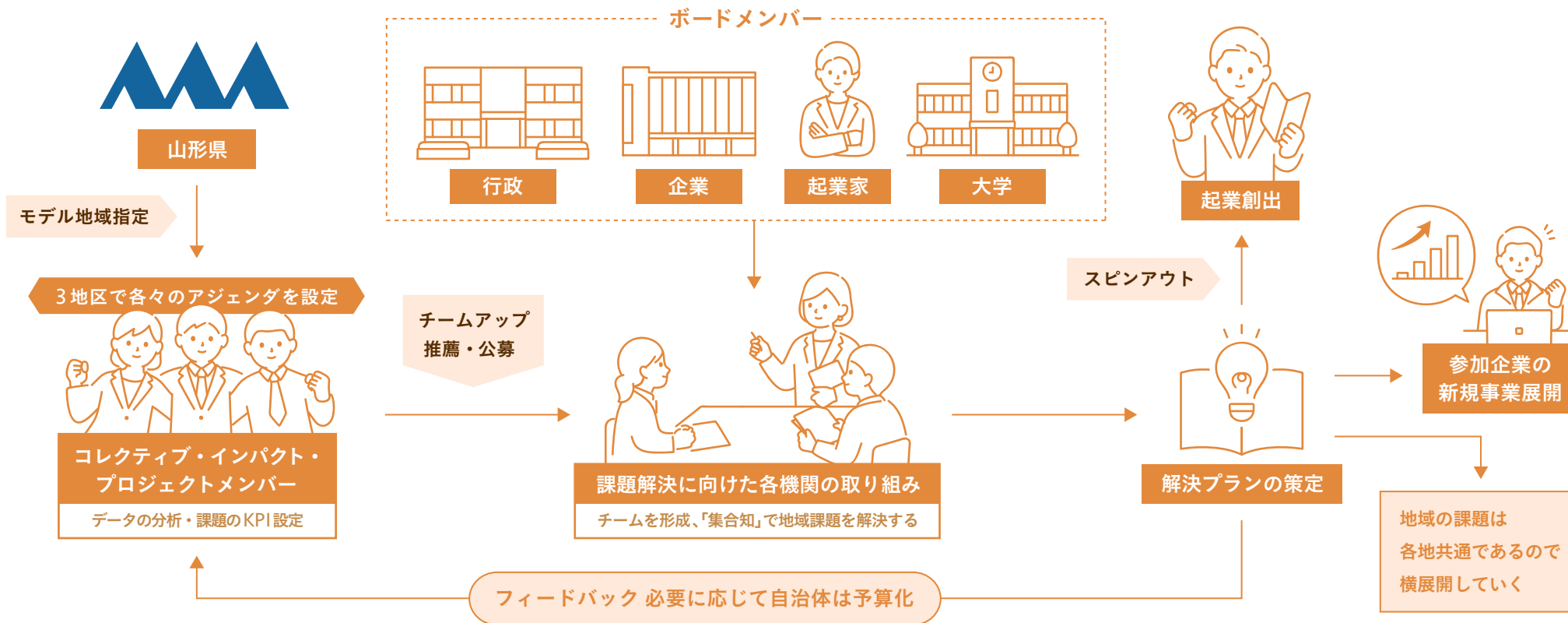
新ビジネス創出の拠点施設「スタートアップステーション・ジョージ山形」にプロジェクトメンバーによる伴走支援体制を構築

- チーフコーディネーター：小野寺忠司教授（山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター センター長）
- プロジェクトメンバー：若手起業家、NPO 法人代表、大学関係者 等

01 yori-i 概要

実施フロー

社会実験として事業をスタートさせ、改善を繰り返し、事業としての精度を高めていく。



山形県版コレクティブインパクト

社会実験として事業をスタートさせ、改善を繰り返し、事業としての精度を高めていく。

Collective Impact (集合的な成果・影響力)

コレクティブ・インパクトとは、特定の社会課題に対して、ひとつの組織の力で解決しようとするのではなく、行政、企業、大学、NPO、基金、市民などがセクターを越え、互いに強みやノウハウを持ち寄って、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を目指すアプローチのことである。社会課題解決のために、ヒト・モノ・カネ・情報を特定の課題解決の旗の下に、効果的かつ集中的に資本投下することにより、課題解決を行っていく活動。

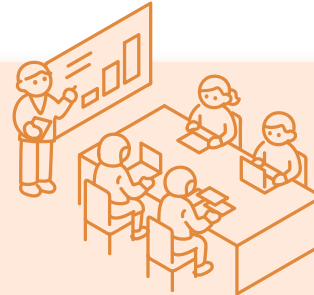
02

実施フロー

地域課題を解決するには、「現状把握」「課題設定」「解決策の検討」「実行」「評価・改善」という基本的なプロセスが重要です。本プロジェクトでは、多様な関係者が協力し、データに基づいて課題を整理しながら、実行可能な解決策を模索してきました。

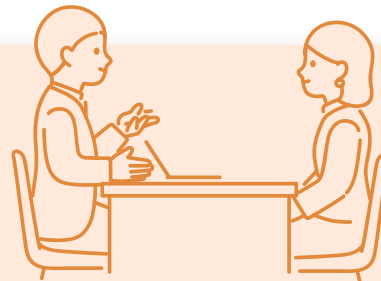
特に、**関係者との協力体制の構築、目的の明確化、データ分析に基づく課題の設定、効果的な実施と評価が成功の鍵となります。**こうした要素を踏まえながら、プロジェクトを着実に進めていくことが求められます。

1 キックオフ／課題の抽出・検証



- チームビルディング・実行体制の構築
- 目的とスケジュールの明確化
- 地元でのヒアリングとデータによる裏付け

2 課題設定・提示



- 課題（アジェンダ）の設定
- アジェンダ分科会体制の構築
- ボードメンバー等への課題提示と議論

02

実施フロー

3 課題解決案検討



- 課題解決へ向けた情報共有、提示課題への解決へ向けた対応策検討
- ピッチイベント等による、地域おこし協力隊等の起業者への提案

4 マッチング／成果確認



- ボードメンバー等協力企業とのマッチング
- 前年度成果確認と翌年度の事業化確認。

5 実行支援／他地域の選定



- 他地域への事業説明と体制の整備
- 資金調達支援、ボードメンバーへの実行依頼
- ボードメンバーとのマッチング支援（継続）

本フローは、基本的な流れを示したのですが、実際の運用では **地域の特性や関係者の状況に応じてカスタマイズしながら進めることを前提としています。** それぞれの地域に合った柔軟なアプローチで、持続可能な解決策を模索してください。

03

チームビルド

プロジェクトを成功に導くためには、多様な視点や専門性を持つ人材が集まり、協力しながら取り組むことが不可欠です。そのため、本プロジェクトでは、異なるバックグラウンドを持つ人材を登用し、それぞれの強みを活かしたチームビルドを行いました。

特に地域の未来を担う若い世代を中心にメンバーを選定し、新たな発想や柔軟なアプローチを重視しました。若い世代が主体的に関わることで、従来の枠にとらわれないアイデアの創出が可能となります。

プロジェクトメンバー

プロジェクト全体の運営・推進を行う

事務局



コーディネーター



チーフ

サブチーフ

コーディネーター

コーディネーターの属性例

起業家、広告代理業、ブランディングの専門家、インフルエンサー、地域おこし協力隊など、それぞれの分野で経験を積んできた人々に関わることで、新しい発想や効果的なアプローチが生まれています。

- チームビルディング・実行体制の構築
- 目的とスケジュールの明確化
- 地元でのヒアリングとデータによる裏付け

コーディネーターの役割



① 本事業の推進



② 関係機関の調整



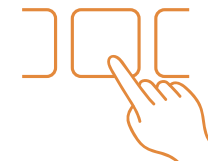
③ 地域課題の抽出



④ データ検証



⑤ テーマに応じた分科会の設定



⑥ 分科会参画企業選定



⑦ 資金調達支援



⑧ 連携先の検討



⑨ 広報活動

04

プロジェクトパーパスの設定

パーパス (目的設定) の重要性

私たちは今、「**何のために存在するのか**」が問われる時代を生きています。企業や組織も同じで、ただ利益を追い求めるだけでなく、**社会にどのような価値をもたらすのか**が注目されています。この「存在意義」を明確にするパーパスは、**顧客や従業員の心を動かし、共感を生み出す力を持っています**。また、パーパスは日々の意思決定や行動を支える基盤となり、**組織が迷わず進むための道しるべ**となります。不確実な時代だからこそ、パーパスが示す方向性が企業の未来を切り開き、社会にも良い影響を与えます。共に成長し、持続可能な未来を目指すために、パーパスは今、欠かせない存在です。

yori-i パーパス

過去から本質を理解して、

未来のあるべき姿に向かって創造し行動することで、

山形から日本や世界を良くしていく。

このプロジェクトの目的は、地域社会の課題解決に向けて「誰もが活躍できるステージ」を創出することにあります。産学官や業種を超えた多様なプレイヤーが一丸となり、データに基づく課題を共有し、同じ方向を向いて解決に取り組む「コレクティブ・インパクト」の手法を採用しています。この手法をパッケージ化し、他の地域にも適用可能なモデルとして提供することで、持続可能な社会の構築を目指します。地域に根付く「寄り合い」の文化を基盤に、山形から新たな価値を創出し、その成功事例を全国へと広げていきます。

05

マネジメント方法の明確化

プロジェクトを円滑に進め、持続的な成果を生み出すためには、明確なマネジメント体制の構築が不可欠です。本プロジェクトでは、関係者がそれぞれの役割を理解し、効果的に連携できる仕組みを整備し、プロジェクト全体の進行をスムーズにするための運営ルールを策定しました。

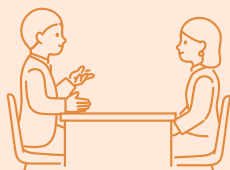
特に、**情報共有と意思決定の透明性を確保するために、定期的なミーティングや個別の打ち合わせを実施し、進捗や課題をリアルタイムで共有できる体制を整えています。**また、プロジェクトの成果を広く発信し、地域内外の関心を高めるために、報告手段や広告媒体を活用した広報活動にも注力しています。

ミーティングについて



定例会議（クローズ・オープン）

定期的な会議を開催し、関係者間の情報共有と意思決定を行います。オープン会議では外部の意見も取り入れ、柔軟な運営を目指します。



個別打ち合わせ

各課題や関係者の状況に応じた個別ミーティングを実施し、具体的な調整や意思決定を行うことで、プロジェクトの進行を円滑にします。

報告手段



定例会議の議事録、活動レポート、進捗報告書などを作成し、関係者に共有することで、迅速な情報伝達を行い、プロジェクトの透明性を高めます。

広告媒体の整備



HP・SNS・メールマガジン etc

プロジェクトの活動状況や成果を複数の媒体で発信することで、地域内外への認知度向上を図ります。

広報コーディネーターの重要性

プロジェクトの広報活動を担う専門担当者を配置し、戦略的な情報発信を行うことで、関係者や支援者とのネットワークを強化します。

イベントや報告会等の企画

プロジェクトの成果を発信し、地域住民や関係者との交流を促進するために、各種イベントや報告会を定期的に開催します。

06

ボードメンバーの募集

本プロジェクトでは、地域課題の解決に向けて、**多様な視点や専門性を持つ「ボードメンバー」**を募り、連携しながら取り組んでいます。ボードメンバーは、企業、行政、NPO、金融機関、報道機関など、異なる立場の関係者で構成され、それぞれの強みを活かしながら、課題の解決と事業化を支援します。

特に、**ビジネスの視点を取り入れた持続可能な仕組みづくりが重要であり、メンバー同士が連携することで、新たなビジネス機会の創出にもつながります。**課題の共有、解決策の検討、資金調達やネットワーク構築など、多角的なアプローチで地域活性化を目指します。

ボードメンバー

プロジェクトに賛同し、ビジネス化含む課題解決に参画する

ボードメンバーの属性

県内外企業(民間)

起業家

ベンチャー企業

行政

支援機関

金融機関

報道

ほか

活動内容

- ① テーマに応じた分科会への参加
- ② 課題に対するビジネス化支援
- ③ その他連携(他の機関・企業の紹介等)
- ④ 本事業の推進に関する助言(人的協力、ヒアリング協力)
- ⑤ 地域での連携に関する協力
- ⑥ データ提供、応用事例、その他



コアメンバー

地域で活動しプロジェクト推進に協力する

“ミクロ”と“マクロ”、両方の視点で地域を捉えていきます

地域でのヒアリング

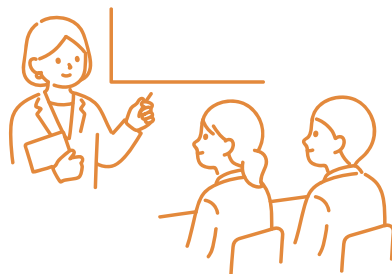
地域に入らないとわからない“ミクロ”な視点

プロジェクトコーディネーター（P23 参照）が地域に入ってヒアリングを行い、社会的インパクトにつながるテーマや課題、資源を抽出します。

例



① 役所・役場等の行政機関で担当者から行政的な課題を伺う。



② 地域の企業に赴き、産業面からの課題を伺う。



③ 住民の方からお話を聴き、生活面での課題を伺う。

データでの分析

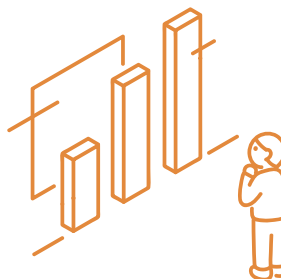
データから見る“マクロ”な視点

RESASなどの公開データから見えてくる構造的な課題の抽出のほか、ミクロ起点の課題を社会的インパクトにつなげるための裏打ちを行います。

例



- ① 地域経済分析システム RESAS
で必要なデータを抽出する。



- ② 国や自治体が公開している統計
データや白書を参照する。



- ③ Webアンケートを使って住民
の声を定性的に計測する。

RESAS サイト



データブックの活用について

yor-iプロジェクトではモデル地域の3町村(金山町・真室川町・鮭川村) 関連データをまとめたデータブックを作成

データブックは、地域課題の現状を把握し、適切な解決策を導き出すための重要な資料です。人口動態や経済状況、産業構造などを整理し、地域の特徴や課題を明確にすることで、関係者間の共通認識を形成します。

また、他地域との比較を通じて、地域独自の強みの活用や成功事例の応用が可能になり、エビデンスに基づいた施策の立案を支援します。これにより、感覚に頼らず、客観的なデータを活かした効果的な地域づくりを進めることができます。

データブック



08

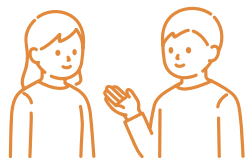
アジェンダの策定

地域課題の解決には、課題を明確にし、優先順位をつけた具体的なアジェンダ（重点課題）の設定が重要です。**yoriiプロジェクトでは、経済、環境、健康、産業、人材育成などの視点から課題を整理し、実現可能なテーマを策定しています。**

また、**住民や企業、行政と対話を重ね、多様な視点を取り入れながら合意形成を進めることを重視。**短期・中長期のバランスを考慮し、持続的な発展につながるアジェンダを設定することで、より効果的な取り組みへとつなげます。

発見した課題をまとめ上げる

課題の発見



ミクロな視点
地域でのヒアリング



マクロな視点
データ分析

まとめる

**4つの視点で
結果を5つに分類**



しっかりと経済循環の一部
として機能できるか？



地域の人とWell-beingに
つながるか？



インパクトとして地域に
残るか？



類似する県内外の他地域へ
応用可能か？

アジェンダ



人

多様な地域人材の育成と創出



産業

地域産業の変革と進化の実現



健康

健康長寿の実現



地域資源

伝統・芸術文化の健全と活用



環境保全

地域、地球の環境保全の促進



人

多様な地域人材の育成と創出

① 転出超過が続いている

10年間転出超過が続いている。平均して、毎年196人が3エリアから減っている。

② ヒアリングから教育サービスの不足

転出超過の原因について、教育サービスへのアクセスの悪さが挙げられた。

③ 県内でも所得が低く戻る理由がない

所得が低く十分な教育サービスを子供たちが受けることができていない可能性が高い。



産業

地域産業の変革と強化の実現

産業の強化**① 基盤産業なく存続しない**

基盤産業がない、非基盤産業のみの地域は地域の中でお金がなくなっていくだけ。

② 基幹的な基盤産業は農業

農業は3エリアで最も一般的な基盤産業である。

③ 3エリアの農家はそこまで稼げていない

3エリアのうち、2つが農業が基盤産業なのに農業産出額が全国平均を下回っている。

④ 耕作地の減少が進んでいる

耕作地の減少はデータで見ると加速度的に進んでいる。

産業の変革**① 外国人観光客向けの観光業の振興**

外国人観光客が地方で行ったアクティビティコンテンツが3エリアには全て備わっている。

② エネルギー支出

エネルギー支出でも地域の稼ぎが流出している。

③ 自然エネルギー資源

3エリアは自然に恵まれており、この自然をエネルギーに転換することができるかもしれない。



健康

健康長寿の実現

健康として**① 介護保険料県内一高額**

金山町の介護保険料は県内一高額になっている。

② 要介護者割合

要支援・介護認定者数のうちの要介護4・5の割合が県内で最も多い。

③ 介護サービス利用

施設利用者が多いことが介護保険料が高額になっている原因。

健康長寿の実現**① 塩分摂取量**

3エリアでの塩分摂取量9.8gは高血圧学会が定める推進食塩摂取基準値6gを超えている。しかし、全国平均の10.1gを下回っている。

② 血圧リスクが高い

塩分過多により高血圧リスクが高い住人が半数近くいる。



地域資源の保全

伝統・芸術文化の保全と活用

① 伝統文化の重要性

「地域の祭りを守りたい」というような声がヒアリングの結果多かった。

② 観光業に必要なコンテンツ

外国人観光客が地方を訪れる理由として非常に重要な要素になっている。

③ 広大な山林資源

総土地面積の80%が山林でこの広大な山林資源の活用。

④ 生態系サービスの重要性

生態系から得られる影響の重要性。



環境保全

地域、地球の環境保全の促進

① 森林面積が広大

3エリアの森林面積は広大で、地域の総土地面積のうち80%に及ぶ。

② 吸収する二酸化炭素量は膨大

3エリアの森林が吸収する二酸化炭素量は山形県の40%の世帯の排出量に相当する。

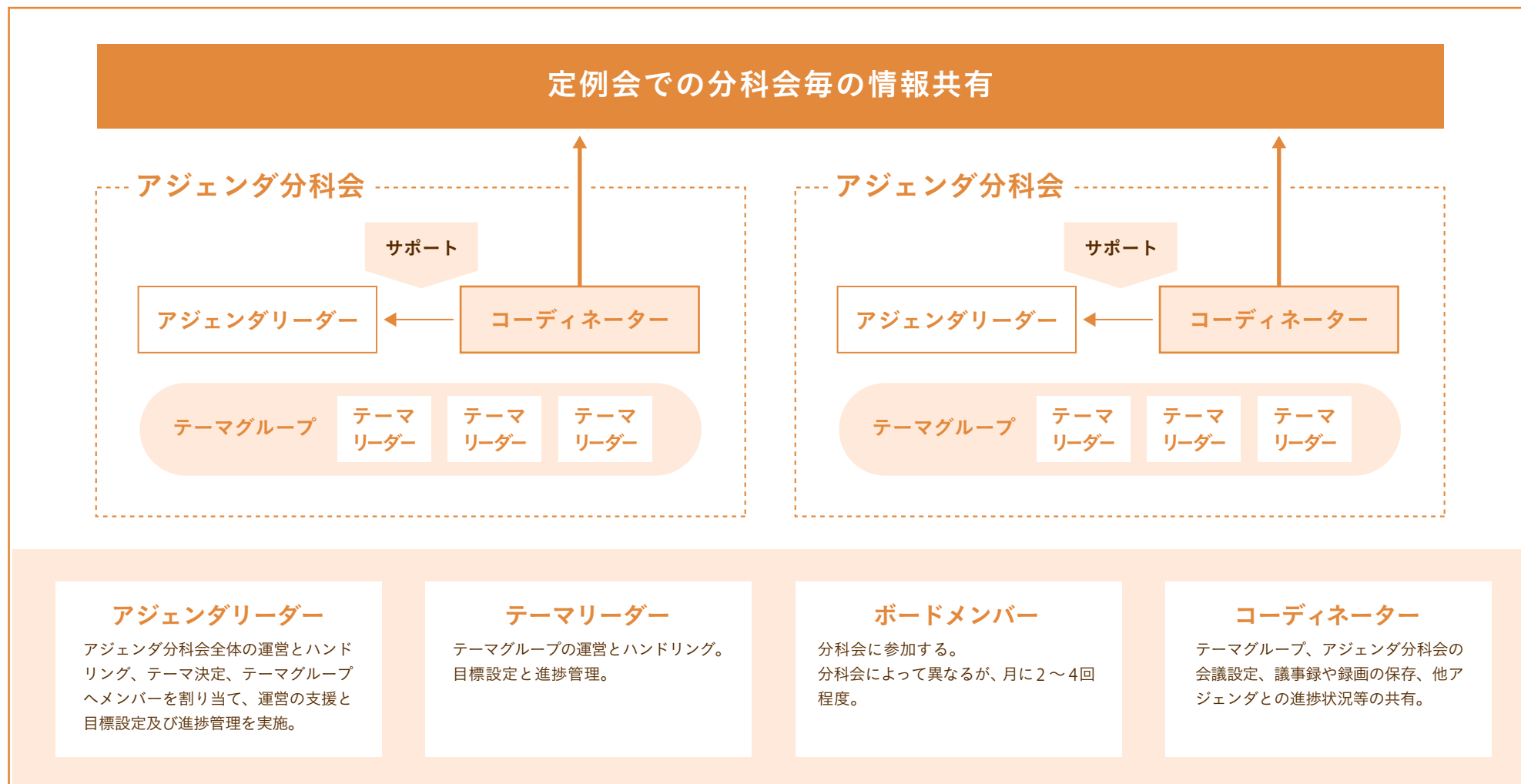
③ 人工林が40%

人の手入れが必要な人工林は40%存在し、持続可能な森林維持の仕組みづくりが必要。

アジェンダ分科会とは

アジェンダ分科会の目的は今後日本中の至る所で発生しうる問題を持続可能な手法での解決を検討及び実証実験をすること。

特にアジェンダで示した5つの課題に対して企業、行政、大学、非営利組織、起業家などのあらゆるセクターを超えて持続可能な解決を試みるための方法を模索すること。



10

アジェンダ分科会の開催

アジェンダが複数ある場合は、ボードメンバーが参加するアジェンダを選び、下記の流れに沿って活動を進めていきます。

	アジェンダの選択決定	テーマ決定・設置	テーマ毎の作業	活動報告
個別会議の頻度	アジェンダ説明会後事務局でとりまとめて発表	2～4回程度 スケジュール調整は各アジェンダリーダー主導で行う	テーマ決定後アジェンダリーダーとテーマリーダーで設定	中間報告、活動報告会に参加必要
アジェンダリーダー	アジェンダ説明会で発表	テーマの決定	アジェンダ毎、テーマ毎のハンドリング	アジェンダ分科会の活動発表
テーマリーダー		テーマの決定と参加者の取りまとめ	テーマ会の目標設定	テーマ会の活動発表
コーディネーター		MTGの時間設定、議事録他分科会との情報共有	アジェンダテーマ会に参加、議事録の作成	活動報告会の周知

テーマ（創業・事業化）を推進するために、大きく3つの方法があります。**事業の成長には、適切なパートナーの選定、地域資源の活用、支援制度の活かし方など、戦略的なアプローチが必要です。**

事業化の初期段階では、**市場やニーズの分析、ビジネスモデルの構築が重要**となり、それに応じた進め方を選択することが求められます。また、**地域や関係者との協力体制を築くことで、事業の持続性や発展の可能性が広がります。**

本プロジェクトでは、個々の事業の特性や目的に応じた柔軟な支援を行い、より効果的な創業・事業化の推進を目指しています。

01

マッチング



同じ課題意識を持つ企業や団体と連携し、アイデアやリソースを共有しながら事業を推進します。

02

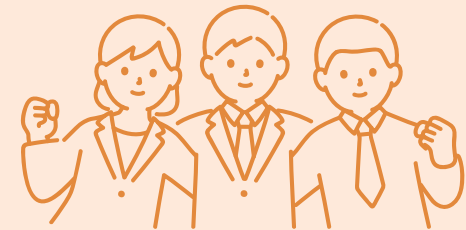
単独



地域の特性や資源を活かし、個別の取り組みとして独自に事業を進めることで、スピーディーな実行が可能です。

03

中間支援



専門機関や支援団体と連携し、ノウハウ提供や資金調達支援を受けながら、事業化を加速させます。

01

マッチングタイプ

特定の課題に対して同じ危機感や課題意識を持つ複数の企業・団体のマッチングを図り、単独では困難な様々なアイデアや連携を模索します。異業種や専門性の異なる組織が協力することで、柔軟な解決策を生み出せるのが特徴です。

マッチングによりリソースの相互活用や新たなビジネスの機会創出が可能となり、事業の持続性が向上します。また、関係者のネットワークが広がることで、実効性の高い施策を展開できます。本プロジェクトでは、企業や行政、NPOなどが連携し、協力体制を強化しています。

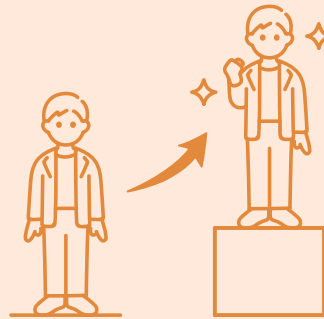


02

単独タイプ

地域の特性や資源を活かし、個別に独自の事業として進める方法です。迅速な意思決定が可能であり、柔軟な対応が求められるプロジェクトに適しています。

単独で進めることで、事業の方向性を自由に設定できるため、地域特化型のモデルを構築しやすいのが特徴です。ただし、資金調達や販路開拓の課題があるため、行政支援や専門家の助言を活用しながら進めることが重要です。



03

中間支援組織等との連携

行政や支援機関と連携し、資金調達や専門的なサポートを受けながら進める方法です。特に新規事業や社会課題の解決を目指すプロジェクトに適しています。

この方法では、補助金や支援制度の活用、専門家の助言を得られるため、安定した事業運営が可能です。一方で、行政との調整が必要となるため、スムーズな進行には事前準備が不可欠です。



マッチングタイプの具体例

最上イノベーションエクスキュート

最上イノベーションエクスキュートは、「人」に関する課題をテーマに掲げ、地域の若者が地元で活躍できる環境をつくることを目的としてスタートしました。

マッチングタイプの手法を用い、関係者を巻き込みながら、課題の共有、組織の立ち上げ、独自事業の展開へと発展。本事例では、以下のステップを通じて、地域課題の解決と新たな事業の創出を実現しました。



1

「人」アジェンダの背景となるデータの収集

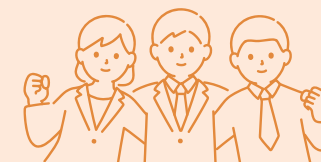
- 10年間転出超過が続いており、毎年平均196人が3エリア（金山町・真室川町・鮭川村）から離れている
- 高等教育機会の減少と地域内所得の低さ
- 地元の起業支援やキャリア教育の機会が不足
- これらのデータをもとに、地域で活躍できる人材の育成が急務と判断



2

テーマリーダーを核としたボードメンバーの参集

- 起業家、教育機関、行政、民間企業など多様なメンバーが集結
- アントレプレナー教育の必要性を議論し、方向性を決定
- プロジェクトの継続性と実現可能性を確保



アジェンダリーダー 田宮 邦彦（学校法人新庄学園理事長・新庄東高等学校校長）

テーマリーダー 菅 聡（株式会社JPD代表取締役・NPO法人E-be代表理事）

ボードメンバー参加企業 株式会社JPD・学校法人新庄学園新庄東高等学校・株式会社ヤママラ
新庄信用金庫・シナプテック株式会社・一般財団法人SFCフォーラム（順不同）

4 一般社団法人の立ち上げ

- 最上イノベーションエグゼクティブを法人化し、継続的な活動基盤を確立
- 地域の未来を担う人材育成を目的とした法人活動を本格化

代表理事 菅 聡 (株式会社JPD代表取締役・NPO法人E-be代表理事)

理事 田宮 邦彦 (学校法人新庄学園理事長・新庄東高等学校校長)
中村 出 (株式会社ヤマムラ取締役企画開発室長)



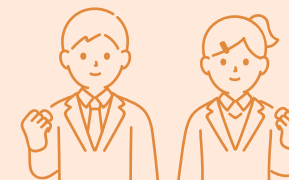
5 独自事業の展開

- 地域の高校生向けにアントレプレナーシップ教育プログラムを提供
- 企業と連携した実践的な学びの場を創出
- 地域の課題をビジネス視点で捉える教育を実施



6 新庄東高校に アントレプレナーコースを設定

- プロジェクトの成果を踏まえ、学校教育へと発展
- 地域の若者が地元でキャリアを築ける環境を整備



13

横展開

最上エリア（金山町・真室川町・鮭川村）をモデル地域としてスタートした yori-i プロジェクトは、そのノウハウやスキームを他の地域へと展開を図りました。

モデル地域（最上地域）での実施を踏まえた県内全域への展開

令和4年度

最上地域をモデル地域として
プロジェクトをスタート



金山町

真室川町

鮭川村

令和5年度

事業趣旨に賛同いただいた
自治体での展開を開始



尾花沢市

飯豊町

令和6年度

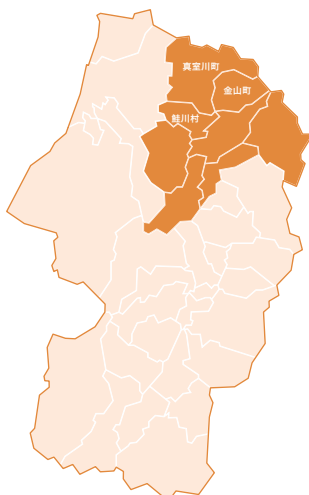
プロジェクトの横展開として
県内全域を対象に活動を実施



遊佐町

高畠町

課題の根拠となるデータの
集積とヒアリング実施地域



- コーディネーターによる県内全市町村訪問
- 4月26日市町村説明会開催
- 複数市町村がボードメンバー登録
- 10月2日遊佐町への展開を記者発表
- 11月6日全市町村対象にyori-i project 利活用説明会を開催

各地域で地域課題解決型ビジネス創出に向けた取り組みを行う人材に yori-i プロジェクトの「プロジェクトコーディネーター」として活動いただくことで、各地域において yori-i プロジェクトのリソースの活用が可能。

yori-i プロジェクト

01

これまでに蓄積されたノウハウ
(マニュアル・データブック等)
を利活用した自地域での実績



02

コーディネーターとの協業
による各地域におけるソー
シャルイノベーター※の育成



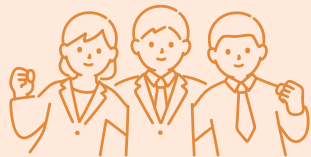
03

記者会見や各種イベントと
連携した取り組みの認知促進



04

ボードメンバーとの連携
による交流人口の拡大



※社会的な問題を解決するために新しいアイデアや方法を提案し、それを実際に形にする人。地域が抱える様々な課題に対して、従来の方法ではなく、革新的で持続可能な解決策を見つけ出そうとする。

プロジェクトコーディネーター

- 「市町村担当コーディネーター」の位置付け
- 地域おこし協力隊や地域で活躍する NPO 等のアサインを想定

事業化支援 起業支援



- yori-i 全体の定例会に参加し、各コーディネーター、事務局と情報共有
- 事業化に向けたコーディネート手法等を各コーディネーターから学ぶ

市町村

市町村が抱える 地域課題

- コワーキングスペースの有効活用
- ポイント活用事業の自走化
- 地元高校の魅力化
- 空き家の利活用
- 地域特産物の販促
- 遊休資産の活用 等



第1弾

令和4年8月31日記者発表

一般社団法人
最上イノベーションエグゼクティブ

アジェンダ 人

解決する課題 教育サービス不足への対応

● 参画企業

株式会社JPD / 株式会社ヤマムラ / 学校法人新庄学園

● 目的

- ① 中高生のアントレプレナーシップ(起業家精神)の醸成
- ② 理論コミュニケーション力を身につける場の提供
- ③ イノベーションをもたらす新たな価値を創出するための思考・行動要素を持つ人材の育成



第2弾

令和4年9月30日記者発表

最上地域
早生桐産業創造プロジェクト

アジェンダ 環境保全、産業

解決する課題 森林資源減少の抑制

● 参画企業

株式会社佐藤運送 / 有限会社グリーンバレー 等

● 目的

杉に比べて成長の早さが10倍、二酸化炭素の吸収量が5倍の早生桐の森林造成を通じ、

- ① 荒地の再利用等による環境の保全
- ② 桐材の商品化等による地域林業の再構築を目指す。

5月植栽の早生桐▶
人物は身長170cm

第3弾

令和4年11月14日記者発表

「大学食堂おいしい山形」
プロジェクト

アジェンダ 人、産業

解決する課題 交流人口拡大、所得向上

● 参画企業

一般社団法人スマートニッチ応援団

● 目的

首都圏の学生が最上地域の食材をふんだんに使う「学生食堂」を東京都内に開設し、そこで最上エリアの地域資源をPRすることにより、最上地域の持つ価値の再構築と山形ファンづくりを行う。



第4弾

令和5年6月20日記者発表

「共創の拠点」をつくる
「サイヒロコプログラム」

アジェンダ 環境保全

解決する課題 若者流出、DX技術の向上

● 参画企業

一般社団法人SAI / 東日本電信電話株式会社
エヌ・ティ・ティコミュニケーションズ株式会社

● 目的

世界的環境アーティストであるサイヒロコ氏からアート思考を学びつつ、氏の作品と認知性の高いデジタル技術を活用してメタバース山形県をつくり、その中で自分がやりたいことに挑戦することを通して、起業・創業のアイデアを見つけ出すことを目指す。



第5弾

令和5年7月11日記者発表

合同会社 Circular Thanks

アジェンダ 健康

解決する課題 地元食材を活用した健康推進、「食」を通じた魅力発信

● 参画企業

合同会社 Circular Thanks

● 目的

最上地域の伝統野菜や山菜など、健康機能を持つ素材を活用し、ストレス社会における美容と健康に関する問題解決に挑むとともに、「食」を通して山形県全体の魅力を発信する。



第6弾

令和5年7月18日記者発表

株式会社リンクス

アジェンダ 健康

解決する課題 スポーツを通じた人々の健康増進

● 参画企業

株式会社リンクス / 新庄商工会議所

● 目的

スポーツを通じて住民の体力向上や健康寿命の増進を図る。また、全国でも珍しい「会社が運営する総合型地域スポーツクラブ」を目指す。



第7弾

令和5年8月8日記者発表

「金山町・神室の自然に触れるアクティビティ」
“道楽 神室ベース” 立ち上げ

アジェンダ 環境保全

解決する課題 自然体験、交流人口創出

● 参画企業

道楽株式会社 / 株式会社 Be-Ryu

● 目的

町内外の若者をメインターゲットとし、グリーンバレー神室の豊かな自然環境を活用した自然アクティビティを提供。自然体験を通して、もっと自然に触れ、自然の大切さを学び、地域の環境保全に結びついていくことを目指して事業を展開。



第8弾

令和5年10月31日記者発表

移住者と遊休不動産を繋げる
「空き家・移住アソシエーション」

アジェンダ 人

解決する課題 移住者支援・空き家対策

● 参画企業

RoomruBe / 県内不動産事業者 / 地域の起業家

● 目的

空き家が住めなくなる状態になる前に県外からの移住者など必要な人に流通させるエコシステムを構築する。推進組織を設立することで、情報収集力と発信力を高める。



第9弾

令和5年11月28日記者発表

「服」の力で地域に“幸福(well-being)”を
一般社団法人 Fuku-Well 設立

アジェンダ 健康

解決する課題 衣服を通じた健康問題の解決
と well-being の促進

● 参画企業

医療法人慈心会井出眼科病院 / 新庄商工会議所

● 目的

高齢・障がい・病気を理由に、衣服の着脱等に不便や難しさを抱える方の自立を支援しつつ、着ることへの楽しみや出かけることの後押しにより Well-being を叶えることを目指す。



第10弾

令和6年1月22日記者発表

企業を通して地域や社会を学ぶAIプラットフォーム
株式会社 Ciel 設立

アジェンダ 健康

解決する課題 高校生のキャリア形成支援
就職後のミスマッチ解消

● 参画企業

株式会社 Ciel 設立

● 目的

高校生のキャリア形成に寄与することを目的とした、最新の生成系 AI 技術による企業情報の提供。高校生が離職する大きな理由の一つである「ミスマッチによる強度な心身ストレス」の解消。

※合同会社 Circular Thanks に続き
山形大学発スタートアップ2社目



第11弾

令和6年2月9日記者発表

畜産飼料の地域内循環を目指して
㈱アルファテック×㈱アイオイ 実証実験開始

アジェンダ 産業

解決する課題 農産資源の地域畜産への活用
食の安全性確保

● 参画企業

株式会社アルファテック / 株式会社アイオイ
山形大学アグリフードシステム先端研究センター(TAAS)

● 目的

地域内の豊富な畜産向けの農産資源の地元畜産への利活用。海外依存度が高い畜産飼料の地産地消化による価格の安定化と食の安全性の確保。



第12弾

令和6年2月13日記者発表

持続可能なエネルギー循環社会を目指す
「ヤマトダマ」試験栽培開始

アジェンダ 産業

解決する課題 地域内のエネルギー確保
中山間地域の農地活用

● 参画企業

株式会社オウルティス / 株式会社金山町須藤農園

● 目的

地域外へのエネルギー支出の削減
中山間地域の農地を活用したエネルギー源確保



第13弾

令和6年5月9日山形大学定例記者発表

「自然の環境・遊休施設活用 × 最新テクノロジー」
株式会社メーカー 設立

アジェンダ 地域資源・健康

解決する課題 伝統・芸術文化・地域資源の
保全と活用

● 参画企業

株式会社メーカー [令和6年4月設立]

● 目的

山形大学 i-HOPE 新事業創出イノベーションプログラムにおいて創出されてビジネスアイデアに基づき、Yamagata yori-i project の支援を受け事業計画を具体化し新会社を設立。廃校施設を利用し、地域の人々の健康増進等の地域の未来を拓くための事業を展開する。



第14弾

令和6年8月2日記者発表

「美と健康を追求し、誰もが最高の姿を実現できる社会を目指す」
BioServe 株式会社 設立

アジェンダ 産業・健康

解決する課題 産業の強化と変革、健康長寿の実現

● 参画企業

BioServe 株式会社 [令和6年8月設立]

● 目的

テマリーダーは自身が手掛けるサロンにおいて、顧客の美と健康に関わってきたが、新たな視点から更なる価値を提供したいと考え、食を通して「美と健康を追求し、誰もが自分自身の最高の姿を実現」することを目指すため、麴を用いたスイーツを提供する。



第15弾

令和6年10月2日記者発表

「yori-i project 遊佐町へ展開」
「ソーシャルビジネス支援体制」発足

アジェンダ 人

解決する課題 多様な地域人材の育成と、
町の未来を担う若者の輩出

● 参画企業

遊佐町 / 一般社団法人 遊ばざるもの学ふべからず

● 目的

yori-i project と遊佐町、町内の若手起業家ら有志で新設した一般社団法人 遊ばざるもの学ふべからず が連携体制を構築。遊佐町内で若者のチャレンジが加速し、若者を中心としたビジネス創出を通じて地域を支える人材を生み出すことを目的とする。



第16弾

令和6年10月15日記者発表

香りのバラ「ダマスクローズ」で新たなチャレンジ
未来のバラの街を目指した「ローズ・ロゼワイン」開発!

アジェンダ 人、地域資源

解決する課題 地域資源の活用と保全
多様な地域人材の育成と創出

● 参画企業

ずはや / 山形薔薇蒸留所

● 目的

村山市産のダマスクローズを使った「ローズ・ロゼワイン」の開発・販売を皮切りに、バラを地域資源に位置付けた「バラの街」という地域エコシステムの構築を目指す。



第17弾

令和6年12月4日記者発表

「がん治療時の脱毛などに悩む方へ高品質ウィッグで人生をポジティブに」

Aillbe 合同会社設立

- アジェンダ 健康
- 解決する課題 健康長寿の実現

● 参画企業
Aillbe 合同会社 / 株式会社 i-three

● 目的
「美と健康を通じて、人々の自信と希望に貢献する」という理念の元、単に外見の美しさを提供するだけではなく、内面からの健康と心のケアを支援。ウィッグを通じてお客様に自信と希望を届け、人生にポジティブな変化をもたらすことを目指す。



第18弾

令和7年2月20日記者発表

地元企業が主体となった即戦力エンジニア育成と若者の定着を目指す
一般社団法人やまがたデジタルキャリア支援機構発足

- アジェンダ 人
- 解決する課題 IT人材不足、若者・女性の県外流出

● 参画企業
株式会社タカハタ電子 / 株式会社 YCC 情報システム
株式会社 KOEI

● 目的
山形県内の企業が主体となって、稼げる企業研修を行い即戦力エンジニアの育成と若者の県内定着を目指す。



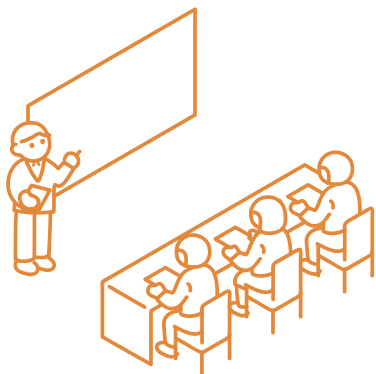
Web記事の例 [第18弾]



各実績は都度記者会見を行なってPRを実施

令和5年度以降の記者会見（成果発表）を含む各種イベントは、yori-i project 公式Webページでも記事として公開しています。

yori-i project
お知らせ一覧



デジタルな情報が強い影響力を持つ現代において、広報活動は非常に重要なアクションです。

事業化・創業化の成果実績はもちろん、参画するボードメンバーの紹介などを通じてプロジェクトの関係人口や関わりしを増やし、有機的な活動の拡大に繋げていきます。

ボードメンバー紹介の一例

地域と未来をつなぐ「株式会社メーカー」



安心・安全・丁寧に、地域を支える「株式会社尾花沢タクシー」



最後に

「寄り合って、燃りあって、より愛する故郷へ」

コレクティブ・インパクトをエンジンにした地方創生への挑戦

山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業では、
より多くの方の関心と親近感を持って認知してもらうために、

事業の“愛称”を設定してスタートしました。

それが **Yamagata yori-i project** です。

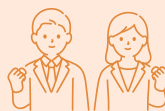
「ちょっと“よりあい”行ってみっぺ」

「“よりあい”さ話してみっぺ」

本当の意味で、セクターを超えて誰もが参加できる場として活動してきました。



18の起業、新事業の創出（令和7年2月28日現在）



市町村の主体的な関わりが動き出す
[地域版 yori-i project の取り組み開始]



150以上の企業、個人が「ボードメンバー」として事業に参画



Yamagata yori-i project に係る「データブック」及び
「マニュアル」の作成



地域活動への参画を通じ、ビジネス化への支援を行う
コーディネーターへの育成・活躍



海外への「仕組み」の転写
（JICAの事業に採択され、令和7年12月からウズベキスタン共和国で実施予定）

お問い合わせ

関連ホームページ等

Yamagata yori-i project

正式名：山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業



<https://yori-i.org/>

お問い合わせ先

団体名	公益財団法人やまがた産業支援機構
住所	〒990-8580 山形県山形市城南町1丁目1-1 霞城セントラル13階
設立	昭和36年6月
問い合わせ先	創業支援部

Yamagata yori-i project

